

さいほく鉄工株式会社

コア連結溶接ロボットシステム導入による 仕口生産プロセスの高度化

特需に対応するとともに新たな受注開拓
コア連結溶接ロボット導入で品質と生産性向上

事業の背景・目的

東日本大震災の復興のために、多くの鉄骨工事が急ピッチに進んでおり、宮城県・福島県の業者だけでは補えない状況が続いている。当社においても、現在は宮城・福島両県

の工事がメインになっている。

そうした需要に応えるため、また、復興がひと段落した後にも当社の強みとして対応できるものとして、ロボットによる溶接加工を計画した。

事業内容

東日本大震災復興によって急増する鉄骨資材等の需要に対応するため、「コア連結連続溶接ロボットシステム」を導入する。工場・倉庫・大型ショッピングモールなど鉄骨資材による建物は柱が重要であり、最近は角パイプが主流になっている。これまでは、人の手による溶接加工を行っていたが、溶接時に発生するヒュームや粉塵は人に害を及ぼす物質も含まれているため、従業員の健康を考慮し職場環境の改善を図る目的もある。

また、当社としては、納品前に100%検査を行ってから出荷しているが、人の手による作業の場合は体調・気候・技術的要因等でいくつかの不具合が発生していた。そのため作業の正確さや夜間での作業も可能となるロボットシステムを導入することにより、連続生産体制の確立と耐震性を高める溶接条件確立など、溶接・接合技術の高度化によって生産性を向上させ特需に対応すると共に新たな受注開拓を図る。



コア連結連続溶接ロボットシステム

事業の成果

ロボットシステム導入は即効性のある設備であるため、すぐに威力を発揮できた。福島県浪江町の建築物の一部を受注した案件も、ロボットによる連続作業が可能だったため工期内に納品することができた。

当社内の納品前の検査においても、ロボット導入後の製品については一つも不備はなく、顧客からのクレームもでておらず、品質向上につながっている。



ロボットによる作業風景

今後の展望

現在は、東日本大震災復興のために業績もあがっており、仕事に追われている状況であるため、新規顧客開拓にまで至っていない。

しかし、いつまでもこの状況が続

くことはないため、ロボット導入による短納期の実現・品質向上による信頼性という点を活かし、大手ゼネコンや設計事務所等に営業を行い、新規顧客確保を目指していく。

DATA

さいほく鉄工株式会社

鉄鋼建築工事
建築附帯工事
工場、倉庫、大型商業店舗、ビル
の鉄骨工事、鉄骨の加工組立



代表取締役
大沢 庸了

住 所
新庄市十日町字中山野村西
5702-1

電 話
0233-22-1295

FAX
0233-23-4318

e-mail
saihoku@extra.ocn.ne.jp

設立年
平成6年4月

資本金
9,500万円

従業員
25名